

ジーエスワン

ジャパン

GS1 Japan News

一般財団法人流通システム開発センター

GS1標準で、安全・安心、効率的なサプライチェーンを推進します

第40号

2026年10月

GS1-128 シンボルと生成 AI を活用した医療機器管理 …… P.2

医薬品医療機器総合機構（PMDA）での
安全性への取り組み …… P.3

GS1 ヘルスケアジャパン協議会 月例会 …… P.4

JAN や ITF を作るには？ その後必要な手続きは？ …… P.5

バーコードの基礎を学ぶ「バーコード入門講座」 …… P.6

GS1-128 シンボルと生成 AI を活用した医療機器管理

ー 和歌山ろうさい病院の取り組み ー

医療機関において、多種多様な医療材料の在庫・使用期限管理は重要である。特にカテーテル等の高額かつ体内に挿入される医療材料は厳重な管理が求められる。しかし、多くの医療機関においては、目視確認や手書き記録など手作業依存の管理が多く見られるのが実情である。

GS1 標準のバーコード（以下、GS1 バーコード）がほぼ全ての医療製品に表示された現在、バーコード活用による安全性と効率化が望まれる一方、GS1 バーコードやリーダに関する専門知識の不足に加え、特に 400 床未満の中小規模施設においては、専用在庫管理システム導入の費用対効果の低さが導入の課題となっている。

生成 AI を活用したシステム構築

この課題を打開したのが、臨床工学技士による生成 AI の活用である。2026 年 6 月に訪問した和歌山ろうさい病院(写真①)でも、従来、カテーテル室内の在庫確認や滅菌期限のチェックは全品への付箋貼付と目視で行っていたが、この作業を、GS1-128 シンボルを用いた管理に変更した。具体的には、GS1-128 シンボルを読み取ったデータから GTIN および有効期限情報を GS1

アプリケーション識別子に基づき抽出する処理プログラミングを、生成 AI を補助ツールとして活用することで構築した。プログラミングの専門知識が乏しい現場スタッフであっても、既存の Excel をベースとした実用的な在庫管理システムが自作可能であることを証明した事例といえる。

運用フローは極めてシンプルである。

① 物品入荷時および棚卸時

GS1-128 シンボルをスキャン

② 期限アラートラベルの発行

スキャンデータから判定した「有効期限リミット（期限まで 3 ヶ月）」を示す赤ラベルを出力し、当該製品にのみ貼付（写真②）することにより、目視による期限切れリスクを最小化し、先出優先（早期利用）の徹底を実現した。

作業時間が半日から 1 時間へ

本システムの導入により、作業効率は飛躍的に向上した。

従来の運用では、スタッフ 3 名

がかりで約半日を要していた滅菌期限の確認作業が、GS1 バーコードの読み取りおよびラベル印刷・貼付を含めて約 1 時間で完了できるなど、大幅な時間的コスト削減と精度向上の双方を達成



写真② 赤ラベル表示

した。

段階的導入（スモールスタート）が示す実用性

現在、和歌山ろうさい病院での運用では GTIN と有効期限情報の 2 項目のみを利用しており、ロット番号の抽出や電子カルテ等の患者情報連携までは拡張していない。また、二次元バーコードリーダを使用していないことから、GS1 データマトリックスにも対応できていない。

GS1 バーコードを用い、納品から使用、廃棄に至るトレーサビリティを確立し、製品リコール時の迅速な対応など、医療安全の向上と効率化は、GS1 導入の最終目標であるともいえる。

しかし、全ての環境整備やシステム統合を待っているのは現場の改善が進まないのも事実である。「まずは活用可能なデータ範囲から着手する」という和歌山ろうさい病院のスモールスタートのアプローチは、コストや人員リソースに制約を抱える多くの医療機関にとって、示唆に富む取り組みといえる。

（イノベーション推進部 植村）



写真① 和歌山ろうさい病院

医薬品医療機器総合機構(PMDA)での安全性への取り組み

— GS1 標準を利用したユーザーフレンドリーな情報提供 —

製品回収への利用

製品回収（リコール）は全ての業種において重要な課題であるが、医薬品や医療機器の不具合は人命に直結するため、より迅速な対応が求められる。製造販売業者は、回収対象となる製品不具合が発生した場合、所轄の都道府県等へ報告するとともに、責任をもって自社製品を利用する医療機関などから製品回収を行う義務がある。

報告された回収情報は、（独）医薬品医療機器総合機構（PMDA）のウェブサイトを通じて広く公表される他、よりスムーズに関係者へ知らせるため、「PMDA メディナビ」と呼ばれる、回収情報の電子メールサービスでも提供されてきた。しかし、従来の回収情報は主に PDF で配信されており、製品情報の記載フォーマットも各社によってさまざまであった。

こうした課題に対し、2026 年 2 月より PMDA では、従来の PDF での情報発信に加え、GTIN とロット番号あるいはシリアル番号を CSV 形式でもウェブサイト上に公開する運用を開始した。

一部の先進的な医療機関では、製造販売業者や卸売業者からの情報のみでなく、自ら PMDA の公開情報を入手して患者安全に生かそうとする動きも見られる。特に手術室等で実際に使用された医療機器の GTIN やロット番号を患者の電子カルテ情報とひも付けて管理している施設にとって、このようなデジタルデータのウェブによる公開は非常に有益である。医療 DX の進展に伴い、GS1 標準の利用領域も広がりを見せている。



添文ナビバージョンアップ

スキャン画面の下に「名前で検索」ボタンを追加、医薬品や医療機器の名前で検索も簡単に

添付文書の電子化と 添文ナビバージョンアップ

かつて医療用医薬品や医療機器には紙の添付文書が同梱されていたが、2019 年の改正薬機法により、原則同梱が廃止され、現在は、「電子化された添付文書（電子添文）」として PMDA のウェブサイトで一元公開されている。このように一元管理している国は日本のみであると思われるが、これにより医療従事者は常に最新情報へのアクセスが可能となった。

同時に製品包装等への GS1 バーコードの表示が義務化され、GS1 バーコードをスキャンすることで電子添文を閲覧できる環境が整った。このバーコード読み取りのために開発されたのがスマホアプリ「添文ナビ^{てんぶん}」である。

GS1 Japan は PMDA からの要請を受け、日本製薬団体連合、（一社）日本医療機器産業連合会と共同でより医療従事者が利用しやすくなるため、2026 年 4 月に添文ナビのバージョンアップを行った。

今回のバージョンアップでは、バーコードの読み取りが難しい環境

やバーコード未表示の包装であっても、医薬品や医療機器の名称などで直接 PMDA の検索ページへ移行できる導線を強化した。本機能は以前からあったものであるが、より使いやすくするため、トップ画面（バーコード読み取り画面）下に「名前で検索」ボタンを配置したものである。

今後も GS1 Japan では、PMDA と連携を図りながら、医療現場の安全性向上と業務効率化に寄与するユーザーフレンドリーな環境整備を推進していく。



添文ナビのウェブサイトはこちら

（イノベーション推進部 植村）

GS1 ヘルスケアジャパン協議会 月例会

— GS1 バーコードで手術用器材の可視化を実現 経営との連携を強化 —

GS1 ヘルスケアジャパン協議会（以下、協議会）は、2026 年 7 月 17 日に月例会を開催した。本会は、協議会会員向けに医療現場をはじめさまざまな場面での GS1 標準の利用について共有・議論する場である。今回は、春日井市民病院技術局臨床工学技術室兼経営戦略室 毛利真吾氏による手術用器材の GS1 バーコード活用事例紹介および（一社）医療情報標準化推進協議会（HELICS 協議会）上野善裕氏による学会チュートリアル報告を行った。

GS1 バーコードにより手術室のデータ化がもたらした変化

毛利氏は「データが変える手術室マネジメント～医療材料トレーサビリティを通じたコスト可視化と経営効率化～」と題して講演を行った。



春日井市民病院 毛利真吾氏

同院は手術室における医療機器・材料管理のデジタル化を進めている。導入前は、使用実績を紙に記録し、後で Excel に転記していたため、記録漏れや入力ミス、棚卸し負荷の増大といった課題があった。

導入の中核は、GS1 バーコードによる使用記録の自動化である。手術中や準備段階で看護師や補助者が材料・機器のバーコードをスキャンし、電子カルテとひも付けることで、各手術の使用品目、数量、価格



月例会の様子

が一元的に記録される仕組みを構築した。主な効果は、以下の通りである。

- ・**可視化**：術式・診療科・時間帯別の使用実績を抽出可能に
- ・**経営連携**：術式ごとの材料費・粗利を算出し材料選定へ反映
- ・**効率化・安全性**：手作業を 6 ～ 7 割削減し、エラー・棚卸し負荷を低減
- ・**在庫最適化**：使用実績を基に機種共有化で過剰備蓄を抑制

一方、課題も残存する。具体的には、GS1 バーコード未付与製品の手入力、製品マスター整備に要する工数、スキャン作業を担う人員確保および運用定着が挙げられる。使用実績データを経営へフィードバックし、材料発注や削減方針の判断に活用する取り組みを進め、継続的な改善を図っている。

標準化への取り組みの現状と今後

上野氏は、第 30 回日本医療情報学会春季学術大会で行ったチュートリアル報告について共有を行った。

HELICS 協議会は、日本における保健医療福祉情報の標準化を推進する専門団体で、医療現場で使われるデータやシステムの規格を審査・採択し、「HELICS 標準化指針」を策定・普及している。協議会のガイ

ドライン「医療製品のための GS1 識別コード（GTIN）ーデータ仕様ならびにその管理 ー」は HELICS 標準化指針（HS044）として採択されている。

同氏からは、医療製品へのバーコード表示義務化が進み、GTIN が医療製品の識別子として認知されつつある点、国が進めている医療製品データベースの構築など制度面・標準面の整備が進展している点などが共有された。また、当日実施されたアンケートについて、企業系・医療情報部門の関心が高く、現場実装に向けたマスター整備や製品表示の位置・ユーザビリティに関する議論拡大の要望が示されたと報告した。

協議会では、医療の安全性向上と効率化に向け、医療機関や関係団体・企業と緊密に連携し、標準導入を積極的かつ継続的に推進していく。

協議会活動に関心がある方は、ぜひ事務局までお問い合わせいただきたい。



GS1 ヘルスケアジャパン
協議会ウェブサイトはこちら

（イノベーション推進部 梶田）

JAN や ITF を作るには？ その後必要な手続きは？

ー GS1 事業者コードの利用に関する Q&A ー

GTIN（JAN コードや集合包装用商品コード）の導入とその後の活用に当たり必要な手続きに関して、多く寄せられる質問とその回答を紹介합니다。

JAN コード (GTIN) 利用開始

Q-1 GS1 事業者コードの登録が完了しました。JAN コードが必要なのですが、この後どうすればよいですか？

A-1 GS1 事業者コードの後ろに商品アイテムコードとチェックデジットを付けて 13 桁の JAN コード (GTIN) を作成してください。具体的な設定方法は下記ウェブページ「GTIN (JAN コード) の作成手順」を参照ください。

<https://www.gs1jp.org/code/jan/procedure.html>

また、当財団のポータルサイト「My GS1 Japan」から GS1 Japan Data Bank - 商品情報 - に商品情報を登録いただくことで、GTIN の設定や管理が簡単に行えます。ぜひ活用ください。

Q-2 設定した JAN コードで JAN シンボルを作りましたが、読み取っても読み取り機器に商品情報が表示されません。なぜですか？

A-2 JAN コード (GTIN) はデータベース検索のためのキーとなる 13 桁の数字であり、バーコード自体に商品情報や価格が入っているわけではありません。商品に GTIN を設定した後は、GS1 Japan Data Bank - 商品情報 - に商品情報を登録することに加え、商品情報を取引先に連絡する必要があります。

ITF、集合包装用商品コード

Q-3 ケース単位に ITF を付けてほしいと取引先に言われました。どう設定すればよいですか？

A-3 GTIN-14（集合包装用商品コード）を設定します。GTIN-14 は、集合包装（ケース単位や、小箱中箱など企業間の取引単位）の内容物である単品を表す GTIN-13（JAN コード）のうちチェックデジットを除いた 12 桁の先頭に 1 桁のインジケータ（1～8）を付け、最後に改めて計算し直したチェックデジット 1 桁を付け作成します。インジケータは、集合包装の識別を必要とするごとに 1 から順番に使います。

この GTIN-14 を、ITF シンボルという物流で読み取られる標準のバーコードで表示してください。

なお、すでに GS1 事業者コードをお持ちの場合は、GTIN-14 の設定に当たって別途の申請手続きは必要ありません。

Q-4 インジケータが足りなくなった場合はどのように対応したらよいのでしょうか。

A-4 GTIN-14 のインジケータ 1～8 を使い切ってしまう、さらに新たに識別が必要な集合包装の形態が発生した場合には、集合包装に新しい（中身の単品とは異なる）GTIN-13 を設定します。

中身の単品とは異なる GTIN-13 を設定するパターンについて、詳しくは下記 URL の Q5、Q10 を参照ください。

< GTIN に関する Q&A >

<https://www.gs1jp.org/standard/identify/gtin/faq.html>

GS1 事業者コード 登録後の手続き

Q-5 「登録内容のご確認のお願い」レターが届きました。何か対応が必要ですか？

A-5 GS1 事業者コードの登録情報を最新の情報にするため、申請料 3 年払いを選択した登録事業者へ 1 年ごとに登録内容のご確認をお願いしています。登録内容に変更がある場合は変更手続きを、GS1 事業者コードを利用されていない場合は返還手続きをお願いします。手続きには便利なネット申請がお勧めです。

変更がない場合、手続きは不要です。

Q-6 商品アイテムコードを使い切ってしまうそうです。また新規で登録する必要がありますか？

A-6 当財団のポータルサイト「My GS1 Japan」から GS1 事業者コードの追加申請をお願いします。

合計 10 万商品アイテムコード分までは、無料で都度 GS1 事業者コードの追加申請ができます。

Q-7 もう JAN コードを利用していません。必要な手続きはありますか？

A-7 GLN など JAN コード以外の GS1 識別コードも利用されていないことを確認の上、GS1 事業者コードの返還手続きをお願いします。

返還手続きの受付後、当財団から改めての書面通知は行いませんので、届出の際は必ず手元に控えを取っておいてください。

（コード管理部）

バーコードの基礎を学ぶ「バーコード入門講座」

ー 正しく使いこなすための第一歩 ー

GS1 Japan では、2 カ月に 1 度、オンラインで参加費無料の「バーコード入門講座」を開催している。もともとは対面形式で行っていたが、2020 年のコロナ禍を機にオンライン開催へと移行し、全国どこからでも気軽に参加できるようになった。新たに GS1 事業者コードを取得し、これからバーコードの利用を始める事業者はもちろん、知識を再確認したい実務担当者や、新入社員の研修としても幅広く活用されている。

本稿では、本講座で解説する主なテーマについて紹介する。

JAN コード (GTIN-13) の体系と設定

JAN コードは、事業者を識別する「GS1 事業者コード」、商品を識別する「商品アイテムコード」、読み誤りを防ぐ「チェックデジット」の 3 要素で構成される (図 1)。実務担当者にとって判断が難しいのが、事業者自身で決定する商品アイテムコードの設定方法である。単品を区別できるように設定する、商品分類ごとにアイテムコードを区分せず連番で設定するなど、正しく商品アイテムコードを設定・管理するためのルールが本講座では分かりやす



図2 トランケーション

く示される。

また基本的な商品情報を登録することで「JAN コードの設定」「商品情報の管理」「バーコード画像の生成」のサポートが受けられる GS1 Japan Data Bank - 商品情報 - (GJDB - 商品情報 -) についても紹介する。

JAN シンボルの印刷上の注意点

バーコードは、正しく印刷されなければ読み取れない。JAN シンボルの基本寸法や倍率、左右に必要な余白 (クワイエットゾーン) の確保など、本講座では印刷上の注意点を挙げて説明する。また、国内でのみ流通する商品であれば、印刷面積を抑えるためにシンボルの高さを削る「トランケーション」 (図 2) という印刷方法があることも紹介する。

物流を支える集合包装用商品コード (GTIN-14)

集合包装用商品コードは、物流セ

ンターでの検品や在庫管理に使用される 14 桁の商品識別コードである。本講座では、設定方法や ITF シンボルを印刷する位置、ベアバーと呼ばれる黒い枠線の役割など、重要なポイントを解説する。

個別質問への対応

本講座終了後には、質疑応答の時間を設け、受講だけでは理解し切れなかった部分や、講座内では触れられなかった個々の疑問にも講師ができる限り丁寧に対応している。

GS1 Japan では、最新情報をお届けできるよう、講座の内容のブラッシュアップを図っている。

開催概要や申し込み手続きの詳細については、右の QR コードから確認いただきたい。



(広報・ブランディング推進室

高橋)

〔GS1事業者コード + 商品アイテムコード + チェックデジット = 13桁で構成〕



図1 JAN コードの体系

GS1 標準の学びを、
もっと手軽に、もっと身近に。

GS1 Japan 講座動画 プラットフォーム

「GS1 Japan 講座動画プラットフォーム」は、
入門から応用まで、GS1 標準に関する各種講座を
オンラインで配信するサービスです。

場所や時間にとらわれず、

“学びたいときに、すぐ学べる”

環境をご提供します。

■ こんな方におすすめです

- ・ 新任担当者の基礎教育に
- ・ GS1 標準の最新動向を知りたい方
- ・ 活用事例をキャッチアップしたい方
- ・ 物流・小売・メーカーなど、サプライチェーンに関わる皆さま

■ 特徴・メリット

- ・ 配信期間中、24 時間いつでも視聴可能
- ・ 講義資料もダウンロードでき、復習しやすい
※一部講座を除く。
- ・ 登録無料
- ・ 一部講座は無料で視聴可能
- ・ 必要なチャプターを選択、繰り返し再生できる
- ・ 再生速度の変更が可能

■ ご利用方法

1. 右記の QR コードを読み取る、または URL にアクセス
https://www.gs1jp.org/seminar_book/seminar/onlineplatform/
2. 講座動画プラットフォームにユーザー登録（無料）
3. 視聴したい講座を選択し、動画で受講



配信講座ラインナップ

無料講座

- ・ EPC/RFID 入門講座
- ・ GS1 Digital Link 入門講座
- ・ EPCIS 入門講座
- ・ 次世代バーコード入門講座

有料講座

- ・ EPC エンコード技術講座 – TDS1.x 編
- ・ EPC エンコード技術講座 – TDS2.x 編
- ・ GS1 Digital Link 技術講座 – 基礎編
- ・ EPCIS 技術講座 – 基礎編
- ・ GTIN パーフェクトセミナー
- ・ ヘルスケアバーコード入門講座

※講座は順次追加・更新予定です。

■ お問い合わせ先

講座内容やご利用方法についてご不明な点がございましたら、下記までお気軽にお問い合わせください。

GS1 Japan（一般財団法人流通システム開発センター）

E-mail : solution@gs1jp.org





GS1 Japan
パートナー会員

GS1 Japan パートナー会員制度設立の目的

流通業における情報システム化に関わる各種キーワード（EPC、EDI、GS1 標準など）を中心として、最新のシステム技術、システム化事例、業界動向、国際動向などの情報を共有し、流通業界全体のシステム化、標準化を推進することを目的とします。

GS1 標準の普及に向けてともに活動していただく「パートナー」

セミナー
講座
見学会

企業活動
の支援

各種資料
提供

新規会員募集中!!



GS1 Japan パートナー
会員制度の詳細は WEB で

2026 年度イベント予定

開催日	イベント名	主なテーマ・議題
4/24	セ ミ ナ ー	・ 変わる小売業の役割 - 2026 年度、日本の消費と流通はどこへ向かうのか ・ 自信を持ってお客様にご案内できる！ GS1 事業者コード利用開始の流れ & My GS1 Japan サービスメニュー ・ GS1 Japan 産業横断レジストリー
6/23	技 術 講 座	・ EPC エンコード技術講座 TDS 1.x 編 / TDS 2.x 編
7/23	技 術 講 座	・ GS1 Digital Link 技術講座 ※ウェブ上映会
8/25	技 術 講 座	・ EPCIS 技術講座 基礎編 / EPCIS 2.x 編
9/17	技 術 講 座	・ EPC エンコード技術講座 TDS 1.x 編 / TDS 2.x 編 ※ウェブ上映会
11/10	技 術 講 座	・ GS1 Digital Link 技術講座
12/8	技 術 講 座	・ EPCIS 技術講座 基礎編 / EPCIS 2.x 編 ※ウェブ上映会
2027 1 月	技 術 講 座	・ テックブログを読んでもみようの会 / 交流会

※上記の日程・内容につきましては都合により変更になる場合がありますのであらかじめご了承ください

発行元：

ジーエスワン ジャパン
GS1 Japan (一般財団法人 流通システム開発センター)
〒107-0062 東京都港区南青山 1-1-1 新青山ビル東館 9F
<https://www.gs1jp.org>



GS1 Japan パートナー会員制度 事務局
お問い合わせフォーム



QR コードは特許デンソーウェブの登録商標です。